

# “がけやま”からのつづやき (3)

## —巣ごもりの中で博物館から心の栄養を…お届けします—

前々号からはじまりました「がけやま」からのつづやき」第3回目になります。日々の気分転換にご一読いただければ幸いです。

前回は過去5年間に開催された展示会の一つを取り上げ、ちょっとした裏話をつづやきました。そして、もう一つつづやきたい展示会がございます。平成31年度（令和元年度）の「時を越え、まちを越え、ここに集結！朝日みりょく発見！伊勢の地に集う—朝日交流展」です。長いタイトルです。今思えば、最近テレビドラマや書名でやたら流行っている長めのタイトルを先取りしたような…、いえいえ、ただ単に一言で展示内容をお伝えする上手い言い回しができなかったからなのです。ですが、少しインパクトがあるような…。

現在、「朝日」のつく自治体が4つあります。山形県、富山県、長野県、そして三重県の当町です。この展示会の契機は、「朝日」4自治体によって平成30年に調印された全国朝日会友好親善町村協定です。そこで、各「朝日」町村に関連する文化財等を展示し、各町村の歴史文化を紹介して、文化面での交流を目的として開催しました。

では、どのへんが裏話的かといいますと、この展示会、それまでのものと比べて展示資料の時代幅がかなり広がったのです。古くは人類誕生のずっと前、約一億九千万年前（ジュラ紀初期）のアンモナイトや植物の化石から、新しいところは昭和の美術作品までを展示しました。そして、この展示会が開催できたのは、各「朝日」町村で出会った人たちのおかげでした。展示会は1年近く前から準備をします。事前に参考文献を調べ、展示候補の資料を選定して、所蔵者の方へ展示会の趣旨説明や借用協力の交渉をいたします。その後、資料の状態を確認するため、現地へお伺いし調査をさせていただきます。調査に赴いた際、各町村の人たちが、「朝日」つながりもあって「ぜひ、三重県の朝日町の方にご覧いただければ…」と非常に好意的に対応して下さい、たくさんのご厚情に接することができました。そのような遣り取りの中で借用した展示資料の一つが、ジュラ紀初期の化石です。「三重県の朝日のみなさん、子どもさんへ触れる化石なんかはどうでしょう」とのご提案をいただき、触れる化石コーナーを設置しました。これが非常に好評で、特に子どもたちは本物の化石に興味津々でした。この化石、日本最大のジュラ紀初期の地層から発見されたものでした。この展示会が充実したものとなり、無事開催できたのは、全国「朝日」町村の方々のおかげです。みなさん素敵な方たちばかりでした。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、もう一つ裏話が…、この展示会、ロゴを作成しました。プロのデザイナーによるものではありませんが、自称アイデアマンの職員が知恵を絞り…、灰色の脳細胞をフル回転させ…、完成することができました。

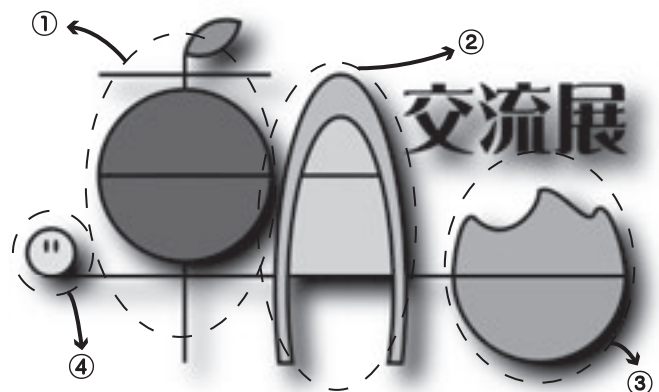
いまさらながら、そのロゴの種明かしをいたしますと、4自治体の「朝日」すべての要素が入っています…、山形県朝日町の特産品リンゴをイメージし、おいしそうなりんご色で(①)、長野県朝日村のシンボリック的存在の山である鉢盛山はちもりやまを新緑の色で(②)、富山県朝日町といえば日本海に面するヒスイ海岸、それを波の形とともに海の色で(③)、そして三重県朝日町はイメージキャラクターのアーミンが、主催者のため少し控えめに登場しています(④)。

また、何年後かに全国「朝日」の展示会を開催する機会があれば、再登場してもらおうかと…密かに思っています。(つづく)



くぬぎだいら たなだ

ポスターで使用した写真。山形県朝日町にある「榎平の棚田」。松尾芭蕉が『おくの細道』で詠んだ有名な句「さみだれをあつめて早し最上川」の最上川と棚田がコラボする絶景の場所です。



展示会のロゴ。広報「あさひ」の紙面は白黒なので、配色をイメージしながらご覧いただければと思います。